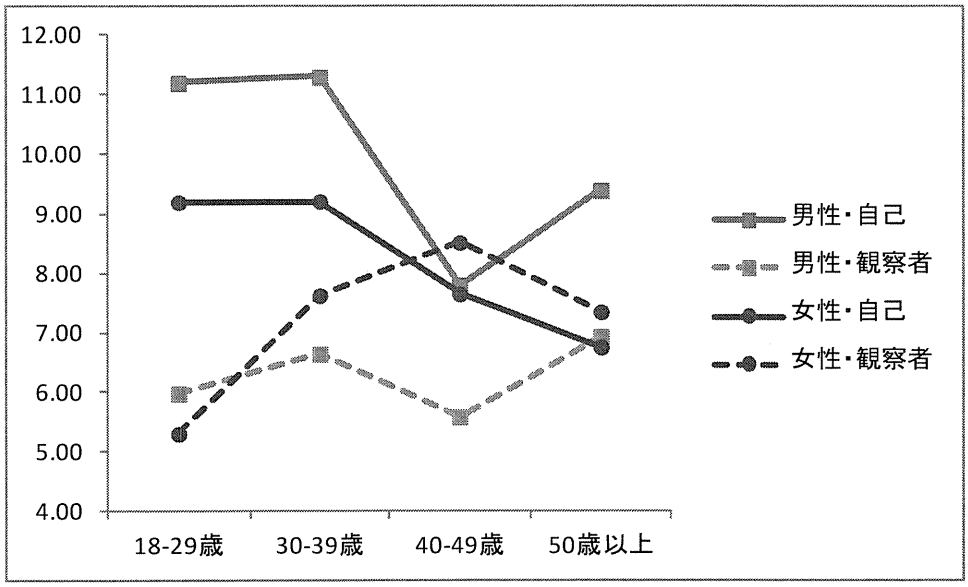

Figure 8　DSM—総合 ADHD 症状の性別・評定者ごとの平均値

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）
分担研究報告書

成人期 ADHD 用のアセスメントツール WURS 日本語版（短縮版）の信頼性と妥当性の検討

分担研究者　辻井正次　中京大学現代社会学部
分担研究者　大西将史　福井大学教育地域科学部
分担研究者　染木史緒　浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

研究要旨

本研究では，治療の上で重要なアセスメントツールに着目し，成人期の注意欠陥多動性障害(ADHD)の診断ツールとして欧米で広く使用されている Wender, P. による Wender Utah Rating Scale (WURS)の日本語版（短縮版）の信頼性と妥当性の検討を行った。日本全国の人口分布を考慮して 781 名（男性 347 名，女性 434 名）からデータを収集した。内的整合性の検討，再検査信頼性の検討の結果，十分な信頼性を有することが確認された。また，定型群と成人期 ADHD 群の得点の比較から十分な弁別力を確認し，CAARS 日本語版の自己報告式との相関から並存的妥当性を，BDI-II との相関から収束的妥当性を確認した。以上から，WURS 日本語版（短縮版）は信頼性と妥当性を備えた尺度であることが明らかになった。

A. 研究目的

我が国では，現在のところ成人期 ADHD をアセスメントする上で必要なツールは十分に整備されていない。本研究班の最終的な目的の一つとして，成人期 ADHD の診断・治療に必要なアセスメントツールを整備することがある。そこで，本研究では，成人期 ADHD のアセスメントツールに関するレヴューにもとづき，欧米の研究および臨床場面において広く使用されている Wender Utah Rating Scale (WURS) 日本語の信頼性と妥当性の検討を行う。

B. 研究方法

1. 調査協力者

1)定型群

WURS 標準化サンプルとして，日本全国の定型発達の青年・成人（19 歳以上）を母集団とした標本調査を実施した。定型発達の基準としては，知的能力の問題がないこと，身体障害や精神障害がないこととした。

サンプル数については，日本全国を北海道・東北，関東，東海・北陸，関西，中国・四国，九州の 6 つの地域に分け，それぞれ人口分布に対応させてサンプル数を決定した。CAARS は，19～29 歳，30～39 歳，40～49 歳，50 歳以上という 4 つの年齢層と，性別による 8 グループ別々の標準得点

を算出する。そのため，6 つの地域それぞれの中で 8 つのグループを均等に配置してサンプル数を決定した。その結果，全体で各グループ約 130 名ずつ，合計 1048 名のデータ収集を目標とした。

さらに，調査協力者の一部に，再検査信頼性の検討のために，約 1 ヶ月間隔で再度回答を求めた。

2)成人期 ADHD 群

WURS 日本語版の弁別力の検討を行うために，分担研究者が治療している成人期 ADHD 患者に WURS を実施した。また，再検査信頼性の検討のために，約 1 ヶ月間隔で再度回答を求めた。

2. 調査内容

1) Wender Utah Rating Scale (WURS)

WURS は，Wender, P. H.らによって作成された尺度である（Ward, Wender, & Reimherr, 1993)。この尺度は，成人期 ADHD を評価する尺度の中では比較的早期に発表された評価尺度であり，成人期 ADHD の臨床現場や研究において広く使用されている。原版は 1985 年に発表された Adult Questionnaire-Childhood Characteristics (AQCC; Wender, 1985)である。

この尺度は，行動（42 項目），体調（7 項目），学校（12 項目）についての全 61 項目から構成される。患者自身が，自分の子ども時代を振り返り，当時の自分にどの程度当てはまるかを 5 段階（0～4 点）で評定する形式である。また，患者が現在の自分（成人期）について評定することもできる。すなわち，小児期得点と，成人期得点（現在評定）という二つの得点を得ることが可能である（Ward et al., 1993)。

WURS には，25 項目の短縮版も存在し，こちらの方が使用頻度は高い。25 項目版は，ADHD の患者と，特に精神障害を有していない統制群（nonpatient comparison group）を弁別できる項目である。また，同時に，ADHD 患者を，単極性のうつ病患者から弁別することも可能である（Ward et al., 1993, Wender, 1995)。25 項目版における ADHD の成人の平均値は 62.2 点（*SD*=14.6）であるのに対して，健常な成人の平均値は 16.1 点（*SD*=10.6），うつ病群では，31.7 点（*SD*=17.4）である。

本研究では，61 項目のフルバージョンを作成し，調査を行っているが，今回は欧米で使用頻度の多い小児期回顧評定による 25 項目版について報告する。なお，WURS 日本語版作成にあたり，WURS の著者者である Wender, P に Oxford University Press 社を通じて WURS 日本語版作成の許可を取った。本研究班の分担研究者の一人が，国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 診断治療開発研究室長である松本俊彦先生より，同氏が作成した WURS 日本語版（短縮版）の項目（Matsumoto et al., 2003）をお借りし，それを参考にして，分担研究者の他の一人がトランスレーションを行った。

2)Conners' Adult ADHD Rating Scale (CAARS)日本語版

CAARS は，Conners, C. K.らによって作成された自己記入式の評価尺度である（Conners, Erhardt, & Sparrow, 1999)。

項目の内容は，DSM-Ⅳの診断基準にもとづいている。

CAARS には，自己報告式（Self-report: S）

と，観察者評価式（Observer-report: O）があり，両方とも項目の内容は同じである。また，CAARS には，2 種類の報告者についてそれぞれ項目数の異なる Long Form，Short Form，Screening Form の 3 タイプがある。したがって，全部で 6 種類あるということになる。本研究では，CAARS Long Forms を用いた。

Long Form は，66 項目あり，因子分析にもとづく 4 つの下位尺度と，DSM-Ⅳの診断基準に則った DSM-Ⅳ ADHD Symptom Subscale（2 下位尺度とそれらの合計），成人期 ADHD を非精神疾患群から弁別するのに適した ADHD Index，さらに被調査者の回答が信頼できるものか判断する材料となる Inconsistency Index から構成される。

因子分析にもとづく 4 つの下位尺度は，①Inattention/Memory Problems（不注意/記憶障害：12 項目），②Impulsivity/Emotional Lability（多動性/落ち着きのなさ：12 項目），③Hyperactivity/Restlessness（衝動性/情緒不安定：12 項目），④Problems with Self-Concept（自己概念問題：6 項目）である。

DSM-Ⅳ ADHD Symptom Subscale には，Inattention Symptoms（DSM—不注意型症状：9 項目）と，Hyperactive-Impulsiveness Symptoms（DSM—多動・衝動型症状：9 項目），さらにこれらを合算した Total ADHD Symptoms（DSM—総合 ADHD 症状：18 項目）がある。

ADHD Index（ADHD 指標）は，12 項目の単一の尺度で，一部他の下位尺度を構成する項目が重複して含まれている。

自己報告式，観察者評価式とも，項目の内容が当てはまる程度を 4 段階（0～3 点）で評定する。

CAARS 日本語版は本研究班において信頼性と妥当性が確認されているため，本研究では，WURS の並存的妥当性の検討のために使用する。

2)Beck Depression Inventory-2nd Edition(BDI-2)

BDI-2 は，Beck , Steer, & Brown (1996) によって作成された世界的に使用されている抑うつの程度を評価する自己記入式の尺度である。日本語版は小嶋・永谷・徳留・古川（2002）によって作成されている。21 項目の抑うつの症状について，最近 2 週間の間の状態をそれぞれ 4 段階で評定を行う。得点が高いほど抑うつ傾向が高いことを意味する。成人期 ADHD には，多くの割合でうつ病の併存がみられることが報告されている（例えば Resnick, 2000）。本研究では，WURS の収束的妥当性の検討のために用いる。

4. 手続

定型群については，分担研究者および全国の調査協力者に依頼し，大学の講義や個別で調査協力者を募った。本研究の目的と内容を説明し，同意の得られた者に調査を行った。

成人期 ADHD 群については，分担研究者が治療している，DSM-IV の成人期 ADHD の診断基準を満たす患者を対象として質問紙調査を実施した。調査の内容を書類および口頭で説明し，同意の得られた者に調査を実施した。

C. 研究結果

1. サンプルの内訳

1)標準化サンプル

定型発達者から収集した標準化サンプルの内訳を Table 1 に示した。全体で 822 名から回答を得たが，回答の不備などを除いた分析対象は，781 名（男性 347 名，女性 434 名）であり，平均年齢は 37.58 歳（SD は 13.64 歳），男性は平均 38.28 歳（SD は 13.66 歳），女性は平均 37.03 歳（SD は 13.61 歳）であった。

なお，定型群のデータは 22 の県，33 カ所で収集された。

再検査実施者は，99 名（男性 45 名，女性 54 名）であり，平均年齢は 37.94 歳（SD は 13.82 歳），男性は平均 37.62 歳（SD は 13.86 歳），女性は平均 38.20 歳（SD は 13.91 歳）であった。

2)成人期 ADHD 群

成人期 ADHD 群は，研究班全体で 13 名から協力を得たが，一部の協力者からは協力が得られず，分析対象は Table 2 に示した 12 人となった。平均年齢は 30.75 歳（SD は 11.13 歳），男性は平均 24.25 歳（SD は 5.56 歳），女性は平均 34.00 歳（SD は 12.05 歳）であった。

再検査実施者の平均年齢は，30.70 歳（SD は 11.95 歳），男性は平均 24.50 歳（SD は 5.20 歳），女性は平均 34.83 歳（SD は 13.76 歳）であった。

なお，成人期 ADHD 群は 12 名と少ないため，今回の分析結果は参考値と位置づけておくことが重要であると考えられる。

2. 性別・年齢層グループごとの平均値（SD）

1)定型群

定型群の WURS 日本語版（短縮版; 以下では，WURS と略記する）の各項目の平均値（SD）を性別・年齢層グループごとに算出した（Table 3～7）。多くの項目は，平均値が低く，特に「No. 59 の能力を十分に発揮できなかった」についてはかなり低い値であった。

2)成人期 ADHD 群

成人期 ADHD 群についても WURS の各項目の平均値（SD）を性別・年齢層グループごとに算出した（Table 8）。「No. 59 の能力を十分に発揮できなかった」については，定型群と同様にかなり低く，0 点であった。

3)定型群と成人期 ADHD 群の尺度得点の平均値（SD）

定型群および成人期 ADHD 群の WURS の尺度得点の平均値（SD）を性別・年齢層グループごとに算出した（Table 9）。成人期 ADHD 群の得点は，定型群の 2 倍以上であった。

3. 信頼性の検討

定型群および成人期 ADHD 群の WURS の α 係数を算出した（Table 10）。その結果，定型群においては，全ての年齢層，性別において十分な値が得られ，内的整合性という面での信頼性が確認できた。また，成人期 ADHD 群においても，十分な値が得られ，内的整合性という面での信頼性が確認できた。

再検査信頼性係数については，定型群においては.82（$p < .001$），.83（$p < .05$）であり，十分な値が得られた。

以上から，日本語版 WURS は，十分な信頼性を備えていると判断し，25 項目を以って WURS 日本語版（短縮版）とした。

3. 妥当性の検討

1)定型群と成人期ADHD群の得点の比較

定型群と成人期ADHD群のWURSの項目得点および尺度得点を男女ごとに比較した結果をTable 11に示した。項目レベルでの比較については，男女ともに，全般的に成人期 ADHD 群の方が有意に高得点であったが，成人期ADHD群のサンプルサイズが小さいためにt値が有意とならない項目もみられた。しかし，効果量dの値に着目すると，No. 59の能力を十分に発揮できなかった」を除く全ての項目において中程度から大きな効果量が得られた。尺度得点の比較については，成人期ADHD群の方が有意に高得点であった。

この結果から，WURSは，定型群と成人期 ADHD 群に対する優れた弁別力を備えており，妥当性を有していると考えられる。

2) CAARS自己報告式およびBDI-IIとの相関の検討

定型群および成人期ADHD群のCAARS自己報告式およびBDI-IIとの相関をTable 12に示した。

定型群では，全ての性別・年齢層において，CAARS 自己報告式との間に中程度から高い正の相関が得られ，WURSの並存的妥当性が確認できた。

BDI-IIとの間には，40代の女性を除いて，全般的に弱から中程度の有意な正の相関が得られ，WURSの収束的妥当性が確認できた。

成人期ADHD群においては，CAARS自己報告式との間に弱から高い正の相関が得られたが，サンプルサイズが小さいために相関係数は有意とはならなかった。しかし，相関係数の値は比較的大きく，方向性も正となっていることから妥当な結果であるといえる。

BDI-IIとの間には，ほとんど相関はみられなかった。これについては，成人期ADHD群のWURSとBDI-IIの分布が全体的に高得点に偏っている可能性が考えられるため，相関しにくいと考えられる。また，サンプルサイズが小さいこともあり，データ数を増やして検討する必要があろう。

これらの結果から，概ねWURSの妥当性が示されたといえる。

4. 性差および年齢差の検討

定型群のデータについて，性別および年齢層を独立変数，WURSの尺度得点を従属変数とする2要因分散分析を行った(Table 13)。また，性別・評定者ごとの平均値のグラフをFigure 1に示した。

その結果，性別×年齢層の交互作用は有意ではなく，性別の主効果と年齢層の交互作用が有意になった。性別については，男性の方が女性よりも有意に高い値であった。年齢層については，18～29歳の得点が40～49歳の得点よりも有意に低く，全般的には年齢が上がるとともに得点が下がる傾向がみられた。この傾向はCAARS日本語版の自己報告式と同様であり，妥当な結果といえよう。

D. 考察

本研究では，日本全国の定型発達者から標準化サンプルを収集するとともに，成人期 ADHD 患者からもデータを収集し，WURS日本語版（短縮版）の信頼性および妥当性の検討を行った。

1. 尺度の信頼性について

定型群，成人期ADHD群ともに，十分なα係数の値が得られ，内的整合性という面での信頼性が確認できた。再検査信頼性について，両群ともに十分な値が得られた。よってWURSは十分な信頼性を備えていることが確認できた。

2. 尺度の妥当性について

尺度の妥当性については，定型群と成人期ADHD群の得点の比較（弁別力の検討），CAARS日本語版の自己報告式との相関係数の検討（並存的妥当性），BDI-IIとの相関係数の検討（収束的妥当性の検討）という3つの観点から行った。

定型群と成人期ADHD群の得点の比較（弁別力の検討）については，成人期ADHD群の方が定型群よりも有意に得点が高く，優れた弁別力を有することが示唆された。

CAARSとの相関では，定型群，成人期ADHD群ともに比較的高い相関が得られ，並存的妥当性が確認できた。

BDI-IIとの相関では，定型群においては全般的に比較的高い有意な正の相関が得られ収束的妥当性を備えることが示唆された。成人期ADHD群においては，ほぼ無相関であり，検討の余地が残された。

しかしながら，全体的にはWURSは使用に耐えるだけの妥当性を備えていることが確認できた。

3. 尺度得点の性差および年齢層差について

定型群のデータについて，性別および年齢層を独立変数，WURSの尺度得点を従属変数とする2要因分散分析を行った結果，性別と年齢層の主効果のみが有意であり，男性の方が有意に得点が高く，18～29歳よりも40代の得点が有意に低く，年齢の上昇とともに得点が低くなる傾向がみられた。性差については，Wenderら（1993）の先行における結果と同様であり，妥当な結果といえる。年齢の効果については，これまで報告されていないが，CAARS日本語版の自己報告式と同様の傾向であることから，妥当な結果と考えられる。研究自己報告式については，全ての下位尺度において，性別×年齢層の交互作用は有意ではなかった。性別の主効果については，多動性/落ち着きのなさ，自己概念問題，DSM—多動・衝動型症状，DSM—総合ADHD症状において有意となり，多動性/落ち着きのなさ，DSM—多動・衝動型症状，DSM—総合ADHD症状においては，男性の方が女性よりも有意に得点が高かった。自己概念問題については，女性の方が男性よりも有意に得点がたかった。自己報告式の全般的な傾向として年齢層が高くなるほど，得点が低くなる傾向がみられた。

以上の結果は，WURS日本語版（短縮版）に信頼性と妥当性があることを示唆する結果である。

4. 今後の課題

今後の検討課題としては，前述したように，成人期ADHD患者のサンプル数を増やして再検査信頼性や尺度間相関，定型群との比較などを再検討すること，BDI-IIとの相関を再検討することが挙げられる。また，フルバージョンについても同様の検討を行うことが必要である。

E. 結論

WURS日本語版（短縮版）を作成して信頼性および妥当性の検討を行ったところ，十分な信頼性と使用に耐えるだけの妥当性

を備えていることが確認できた。

引用文献

Beck, A. T., Brown, G. K., & Steer. R. A. (1996). Manual for the Beck Depression Inventory second edition. San Antonio, TX: The Psychological Corporation.

Conners, C. K., Erhardt, D., & Sparrow, D., (1999). CAARS Adult ADHD Rating Scales. New Yok: Multi-Health Systems.

小嶋雅代・永谷照男・徳留信寛・古川壽亮 (2002). 日本語版 Beck Depression Inventory-II (BDI-II) の開発 Journal of epidemiology, 12, 179.

Matsumoto T, Kamijo A, Yamaguchi A et al. (2005). Childhood histories of attention-deficit/hyperactivity disorders in Japanese methamphetamine and inhalant abusers:A preliminary report. Psychiatry Clinical Neurosciences. 102-105.

Resnick, R. J. (2000). The hidden disorder : a clinician's guide to attention deficit hyperactivity disorder in adults. Washington, DC: American Psychological Association. (レズニック, R. J. 紅葉誠一 (訳) 成人の ADHD : 臨床ガイドブック 東京書籍.

Wender, P. H. (1985). The AQCC (Adult Questionnaire Childhood Characteristics) scale. *Psychopharmacology Bulletin*, **21**, 927-928.

Wender, P. H. (1995). Attention deficit hyperactivity disorder in adults. New York: Oxford University Press. (ウェンダー, P. H. 福島 章・延与和子 (訳) 成人期の ADHD—病理と治療— 新曜社, 2002)

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

Table 1　定型群の WURS のサンプルの内訳

年齢層	男性	女性	全体
標準化サンプル			
18～29歳	99	153	252
30～39歳	99	93	192
40～49歳	68	95	163
50歳以上	81	93	174
全体	347	434	781
再検査サンプル			
18～29歳	17	19	36
30～39歳	8	5	13
40～49歳	8	15	23
50歳以上	12	15	27
全体	45	54	99

Table 2　成人期 ADHD 群の WURS のサンプルの内訳

	男性	女性	全体
1回目	4	8	12
再検査	5	4	9

Table 3　定型群（18～29 歳）の WURS の平均値（SD）

		男性（n = 99）		女性（n = 153）		全体（n = 252）	
		M	SD	M	SD	M	SD
3	concentration problems easily distracted	1.80	1.26	1.24	1.12	1.46	1.21
4	anxious worrying	2.15	1.29	2.05	1.39	2.09	1.35
5	nervous fidgety	1.78	1.36	1.22	1.12	1.44	1.25
6	inattentive daydreaming	1.51	1.26	1.33	1.16	1.40	1.20
7	hot- or short-tempered low boiling point	1.35	1.22	1.23	1.21	1.28	1.21
9	temper outbursts tantrums	0.99	1.16	0.94	1.15	0.96	1.15
10	trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	1.42	1.25	1.06	1.11	1.20	1.18
11	stubborn strong-willed	1.98	1.25	1.84	1.27	1.89	1.26
12	sad or blue depressed unhappy	0.66	1.00	0.51	0.92	0.57	0.95
15	disobedient with parents rebellious sassy	1.09	1.12	0.85	1.01	0.94	1.05
16	low opinion of myself	1.41	1.25	1.20	1.09	1.28	1.16
17	irritable	1.15	1.01	0.92	0.96	1.01	0.98
20	moody ups and downs	1.74	1.31	1.33	1.11	1.49	1.21
21	angry	1.19	1.25	0.97	1.07	1.06	1.15
40	trouble seeing things from someone else's point of view	1.24	1.06	0.91	0.86	1.04	0.96
24	acting without thinking impulsive	1.63	1.21	1.25	1.17	1.40	1.20
25	tendency to be immature	1.30	1.09	0.94	0.99	1.08	1.04
26	guilty feelings regretful	1.69	1.32	1.44	1.21	1.54	1.26
27	losing control of myself	1.08	1.08	0.67	0.93	0.83	1.01
28	tendency to be or act irrational	1.15	1.01	0.69	0.88	0.87	0.96
29	unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	0.65	0.91	0.66	0.87	0.65	0.89
41	trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	0.54	1.05	0.10	0.36	0.27	0.75
51	overall a poor student slow learner	0.91	1.06	0.67	0.91	0.76	0.98
56	trouble with mathematics or numbers	2.13	1.45	1.16	1.31	1.54	1.44
59	not achieving up to potential	0.05	0.41	0.02	0.18	0.03	0.29

Table 4　定型群（30～39 歳）の WURS の平均値（SD）

		男性（n = 99）		女性（n = 93）		全体（n = 192）	
		M	SD	M	SD	M	SD
3	concentration problems easily distracted	1.57	1.23	1.06	1.05	1.32	1.17
4	anxious worrying	1.68	1.20	1.74	1.29	1.71	1.24
5	nervous fidgety	1.35	1.10	1.05	1.12	1.21	1.12
6	inattentive daydreaming	1.04	0.96	1.11	1.03	1.07	0.99
7	hot- or short-tempered low boiling point	1.60	1.15	1.24	1.11	1.42	1.14
9	temper outbursts tantrums	1.19	1.15	0.87	1.00	1.04	1.09
10	trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	1.53	1.12	0.85	0.91	1.20	1.07
11	stubborn strong-willed	1.78	1.21	1.69	1.21	1.73	1.21
12	sad or blue depressed unhappy	0.52	0.71	0.46	0.82	0.49	0.76
15	disobedient with parents rebellious sassy	1.24	1.13	0.99	1.01	1.12	1.07
16	low opinion of myself	1.07	0.90	1.08	0.98	1.07	0.94
17	irritable	1.15	0.98	0.89	1.04	1.03	1.02
20	moody ups and downs	1.42	1.11	1.14	0.95	1.29	1.04
21	angry	1.25	1.02	1.06	0.96	1.16	1.00
40	trouble seeing things from someone else's point of view	1.25	0.99	1.01	0.91	1.14	0.96
24	acting without thinking impulsive	1.46	1.11	1.00	1.00	1.24	1.08
25	tendency to be immature	1.19	1.03	0.82	0.94	1.01	1.00
26	guilty feelings regretful	1.47	1.10	1.16	1.00	1.32	1.06
27	losing control of myself	0.88	0.96	0.58	0.80	0.73	0.90
28	tendency to be or act irrational	0.91	0.86	0.53	0.70	0.72	0.81
29	unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	0.77	0.95	0.63	0.88	0.70	0.92
41	trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	0.54	1.00	0.14	0.46	0.34	0.81
51	overall a poor student slow learner	0.75	0.94	0.52	0.88	0.64	0.92
56	trouble with mathematics or numbers	1.88	1.43	0.62	0.97	1.27	1.38
59	not achieving up to potential	0.02	0.14	0.02	0.21	0.02	0.18

Table 5　定型群（40～49 歳）の WURS の平均値（SD）

	男性（n = 68）		女性（n = 95）		全体（n = 163）	
	M	SD	M	SD	M	SD
3 concentration problems easily distracted	1.44	1.14	1.06	1.05	1.27	0.99
4 anxious worrying	1.57	1.00	1.74	1.29	1.60	1.06
5 nervous fidgety	1.35	1.06	1.05	1.12	1.25	1.04
6 inattentive daydreaming	1.10	1.07	1.11	1.03	1.07	1.03
7 hot- or short-tempered low boiling point	1.44	1.15	1.24	1.11	1.30	1.09
9 temper outbursts tantrums	1.16	1.05	0.87	1.00	1.02	1.02
10 trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	1.22	0.97	0.85	0.91	1.07	0.93
11 stubborn strong-willed	1.69	1.28	1.69	1.21	1.59	1.20
12 sad or blue depressed unhappy	0.68	0.94	0.46	0.82	0.65	0.92
15 disobedient with parents rebellious sassy	0.97	0.98	0.99	1.01	0.88	0.97
16 low opinion of myself	1.12	0.94	1.08	0.98	1.13	0.96
17 irritable	1.01	0.94	0.89	1.04	0.96	0.91
20 moody ups and downs	1.03	0.79	1.14	0.95	1.07	0.87
21 angry	1.19	1.04	1.06	0.96	1.10	1.00
40 trouble seeing things from someone else's point of view	1.32	1.04	1.01	0.91	0.99	0.94
24 acting without thinking impulsive	1.03	0.98	1.00	1.00	0.96	0.93
25 tendency to be immature	1.10	0.95	0.82	0.94	0.92	0.92
26 guilty feelings regretful	1.32	0.89	1.16	1.00	1.34	0.90
27 losing control of myself	0.74	0.70	0.58	0.80	0.64	0.73
28 tendency to be or act irrational	0.69	0.76	0.53	0.70	0.55	0.71
29 unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	0.81	0.85	0.63	0.88	0.74	0.84
41 trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	0.46	0.85	0.14	0.46	0.25	0.69
51 overall a poor student slow learner	0.72	0.94	0.52	0.88	0.70	0.90
56 trouble with mathematics or numbers	1.60	1.21	0.62	0.97	1.14	1.19
59 not achieving up to potential	0.04	0.36	0.02	0.21	0.02	0.23

Table 6　定型群（50 歳以上）の WURS の平均値（SD）

	男性（n = 88）		女性（n = 93）		全体（n = 181）	
	M	SD	M	SD	M	SD
3 concentration problems easily distracted	1.40	1.03	1.15	0.85	1.18	0.96
4 anxious worrying	1.70	1.13	1.62	1.11	1.59	1.11
5 nervous fidgety	1.57	1.11	1.17	1.03	1.29	1.10
6 inattentive daydreaming	1.00	0.94	1.04	1.01	0.83	0.87
7 hot- or short-tempered low boiling point	1.40	1.09	1.20	1.04	1.18	1.04
9 temper outbursts tantrums	1.06	1.04	0.93	0.99	0.91	0.98
10 trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	1.42	0.97	0.96	0.89	1.13	0.95
11 stubborn strong-willed	1.49	1.05	1.52	1.14	1.56	1.17
12 sad or blue depressed unhappy	0.80	0.97	0.63	0.91	0.73	0.89
15 disobedient with parents rebellious sassy	1.01	0.90	0.81	0.96	0.85	0.91
16 low opinion of myself	1.27	1.10	1.14	0.99	1.17	1.03
17 irritable	1.01	1.01	0.92	0.90	0.83	0.88
20 moody ups and downs	1.16	0.89	1.11	0.93	0.97	0.86
21 angry	1.09	1.00	1.03	0.96	0.90	0.88
40 trouble seeing things from someone else's point of view	1.25	0.97	0.75	0.79	1.02	0.92
24 acting without thinking impulsive	1.32	1.05	0.91	0.89	1.03	0.95
25 tendency to be immature	1.28	1.11	0.79	0.89	1.09	1.07
26 guilty feelings regretful	1.28	0.95	1.35	0.92	1.36	0.99
27 losing control of myself	0.86	0.95	0.58	0.74	0.74	0.85
28 tendency to be or act irrational	0.88	0.89	0.45	0.66	0.64	0.80
29 unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	0.78	0.92	0.69	0.84	0.62	0.81
41 trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	0.36	0.78	0.09	0.49	0.19	0.58
51 overall a poor student slow learner	0.85	0.87	0.68	0.87	0.70	0.86
56 trouble with mathematics or numbers	1.90	1.35	0.81	1.05	1.41	1.33
59 not achieving up to potential	0.09	0.48	0.00	0.00	0.04	0.33

Table 7　定型群（全年齢）の WURS の平均値（SD）

	男性(n = 347)		女性(n = 434)		全体(n = 781)	
	M	SD	M	SD	M	SD
3 concentration problems easily distracted	1.57	1.18	1.13	1.00	1.33	1.10
4 anxious worrying	1.80	1.19	1.77	1.27	1.78	1.23
5 nervous fidgety	1.52	1.18	1.14	1.08	1.31	1.14
6 inattentive daydreaming	1.18	1.09	1.08	1.05	1.12	1.07
7 hot- or short-tempered low boiling point	1.45	1.16	1.18	1.10	1.30	1.13
9 temper outbursts tantrums	1.10	1.11	0.89	1.04	0.98	1.07
10 trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	1.41	1.10	0.95	0.97	1.16	1.06
11 stubborn strong-willed	1.75	1.21	1.69	1.23	1.72	1.22
12 sad or blue depressed unhappy	0.65	0.91	0.56	0.88	0.60	0.89
15 disobedient with parents rebellious sassy	1.09	1.05	0.84	0.97	0.95	1.01
16 low opinion of myself	1.22	1.07	1.13	1.02	1.17	1.04
17 irritable	1.09	0.99	0.86	0.92	0.96	0.96
20 moody ups and downs	1.37	1.10	1.13	0.99	1.24	1.05
21 angry	1.18	1.09	0.95	0.96	1.06	1.03
40 trouble seeing things from someone else's point of view	1.26	1.01	0.88	0.85	1.05	0.95
24 acting without thinking impulsive	1.39	1.12	1.02	1.01	1.19	1.08
25 tendency to be immature	1.23	1.05	0.88	0.96	1.03	1.02
26 guilty feelings regretful	1.46	1.11	1.35	1.07	1.40	1.09
27 losing control of myself	0.90	0.95	0.62	0.82	0.75	0.89
28 tendency to be or act irrational	0.93	0.90	0.55	0.76	0.72	0.85
29 unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	0.74	0.91	0.62	0.83	0.68	0.87
41 trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	0.48	0.94	0.09	0.39	0.27	0.72
51 overall a poor student slow learner	0.81	0.96	0.62	0.88	0.70	0.92
56 trouble with mathematics or numbers	1.90	1.38	0.93	1.17	1.36	1.36
59 not achieving up to potential	0.05	0.37	0.01	0.14	0.03	0.27

Table 8　成人期 ADHD 群のの WURS の平均値（SD）

	男性(n = 4)		女性(n = 8)		全体(n = 12)	
	M	SD	M	SD	M	SD
3 concentration problems easily distracted	3.50	1.00	2.88	0.83	3.08	0.90
4 anxious worrying	2.75	1.26	2.88	1.25	2.83	1.19
5 nervous fidgety	2.25	1.50	3.00	1.31	2.75	1.36
6 inattentive daydreaming	4.00	0.00	3.38	0.74	3.58	0.67
7 hot- or short-tempered low boiling point	3.25	0.96	2.75	1.39	2.92	1.24
9 temper outbursts tantrums	3.25	0.50	2.63	1.19	2.83	1.03
10 trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	3.50	1.00	3.13	0.64	3.25	0.75
11 stubborn strong-willed	3.25	0.96	3.25	0.46	3.25	0.62
12 sad or blue depressed unhappy	2.25	1.26	2.38	1.30	2.33	1.23
15 disobedient with parents rebellious sassy	3.50	0.58	3.00	1.07	3.17	0.94
16 low opinion of myself	2.25	1.50	0.88	0.64	1.33	1.15
17 irritable	3.50	0.58	2.75	1.04	3.00	0.95
20 moody ups and downs	3.25	1.50	3.25	0.89	3.25	1.06
21 angry	3.25	0.50	3.00	1.20	3.08	1.00
40 trouble seeing things from someone else's point of view	3.75	0.50	3.00	0.76	3.25	0.75
24 acting without thinking impulsive	3.75	0.50	3.25	0.89	3.42	0.79
25 tendency to be immature	2.75	1.50	2.25	1.28	2.42	1.31
26 guilty feelings regretful	2.00	1.63	2.63	1.30	2.42	1.38
27 losing control of myself	3.00	1.41	2.63	1.19	2.75	1.22
28 tendency to be or act irrational	3.00	1.41	2.38	1.51	2.58	1.44
29 unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	2.75	0.96	2.50	1.69	2.58	1.44
41 trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	2.00	1.63	1.38	1.30	1.58	1.38
51 overall a poor student slow learner	1.75	1.26	2.00	1.31	1.92	1.24
56 trouble with mathematics or numbers	2.75	1.89	1.50	1.41	1.92	1.62
59 not achieving up to potential	0.00	0.00	0.50	1.41	0.33	1.15

Table 9　定型群および成人期 ADHD 群の WURS の平均値（SD）

	男性			女性			全体		
	n	*M*	*SD*	*n*	*M*	*SD*	*n*	*M*	*SD*
定型群									
18～29歳	99	32.59	15.72	153	25.19	14.07	252	28.10	15.15
30～39歳	99	29.51	14.66	93	22.27	13.52	192	26.00	14.54
40～49歳	68	26.82	13.51	95	22.32	11.58	163	24.20	12.58
50歳以上	81	28.23	13.78	93	20.20	11.40	174	23.94	13.15
全体	347	29.56	14.65	434	22.87	12.99	781	25.84	14.14
成人期ADHD群	4	71.25	15.78	8	63.13	15.80	12	65.83	15.58

Table 10　定型群および成人期 ADHD 群の WURS の内的信頼性係数

	男性	女性	全体
定型群			
18～29歳	.90	.90	.90
30～39歳	.91	.91	.91
40～49歳	.91	.88	.90
50歳以上	.91	.89	.91
全体	.91	.90	.91
成人期ADHD群	.90	.90	.90

Table 11　CAARS 自己報告式の平均値（M）と標準偏差（SD）（年齢層別・性別）

	定型群				成人期ADHD群				群比較						
	男性		女性		男性		女性		男性			女性			
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	t		d	t		d
3 concentration problems easily distracted	1.57	1.18	1.13	1.00	3.50	1.00	2.88	0.83	3.25	**	1.63	4.92	***	1.75
4 anxious worrying	1.80	1.19	1.77	1.27	2.75	1.26	2.88	1.25	1.59		0.80	2.45	*	0.87
5 nervous fidgety	1.52	1.18	1.14	1.08	2.25	1.50	3.00	1.31	1.22		0.61	5.27	**	1.72
6 inattentive daydreaming	1.18	1.09	1.08	1.05	4.00	0.00	3.38	0.74	48.43	***	2.61	6.16	***	2.20
7 hot- or short-tempered low boiling point	1.45	1.16	1.18	1.10	3.25	0.96	2.75	1.39	3.10	*	1.56	4.00	***	1.43
9 temper outbursts tantrums	1.10	1.11	0.89	1.04	3.25	0.50	2.63	1.19	3.89	**	1.95	4.69	***	1.67
10 trouble with stick-to-it-tiveness not following through. failing to finish things started	1.41	1.10	0.95	0.97	3.50	1.00	3.13	0.64	3.78	**	1.90	4.78	***	2.24
11 stubborn strong-willed	1.75	1.21	1.69	1.23	3.25	0.96	3.25	0.46	2.47	*	1.24	8.99	***	1.28
12 sad or blue depressed unhappy	0.65	0.91	0.56	0.88	2.25	1.26	2.38	1.30	3.49	**	1.75	3.93	***	2.05
15 disobedient with parents rebellious sassy	1.09	1.05	0.84	0.97	3.50	0.58	3.00	1.07	4.59	***	2.31	6.21	***	2.22
16 low opinion of myself	1.22	1.07	1.13	1.02	2.25	1.50	0.88	0.64	1.91		0.96	0.71		0.25
17 irritable	1.09	0.99	0.86	0.92	3.50	0.58	2.75	1.04	4.86	***	2.45	5.75	***	2.05
20 moody ups and downs	1.37	1.10	1.13	0.99	3.25	1.50	3.25	0.89	3.38	**	1.70	6.00	***	2.14
21 angry	1.18	1.09	0.95	0.96	3.25	0.50	3.00	1.20	3.79	**	1.90	5.93	***	2.12
40 trouble seeing things from someone else's point of view	1.26	1.01	0.88	0.85	3.75	0.50	3.00	0.76	4.90	***	2.46	6.99	***	2.49
24 acting without thinking impulsive	1.39	1.12	1.02	1.01	3.75	0.50	3.25	0.89	4.22	***	2.12	6.18	***	2.20
25 tendency to be immature	1.23	1.05	0.88	0.96	2.75	1.50	2.25	1.28	2.87	*	1.44	3.97	***	1.42
26 guilty feelings regretful	1.46	1.11	1.35	1.07	2.00	1.63	2.63	1.30	0.96		0.48	3.31	**	1.18
27 losing control of myself	0.90	0.95	0.62	0.82	3.00	1.41	2.63	1.19	4.35	***	2.19	6.78	***	2.42
28 tendency to be or act irrational	0.93	0.90	0.55	0.76	3.00	1.41	2.38	1.51	4.53	***	2.28	3.42	*	2.36
29 unpopular with other children didn't keep friends for long didn't get along with other children	0.74	0.91	0.62	0.83	2.75	0.96	2.50	1.69	4.39	***	2.21	3.13	*	2.21
41 trouble with authorities trouble with school visits to principal's office	0.48	0.94	0.09	0.39	2.00	1.63	1.38	1.30	3.19	*	1.60	2.78	*	3.02
51 overall a poor student slow learner	0.81	0.96	0.62	0.88	1.75	1.26	2.00	1.31	1.94		0.97	4.37	***	1.56
56 trouble with mathematics or numbers	1.90	1.38	0.93	1.17	2.75	1.89	1.50	1.41	1.22		0.61	1.36		0.48
59 not achieving up to potential	0.05	0.37	0.01	0.14	0.00	0.00	0.50	1.41	0.27		0.13	0.98		2.14
全体尺度	29.56	14.65	22.87	12.99	71.25	15.78	63.13	15.80	5.66	***	2.84	8.66	***	3.09

$^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$, $^{***}p<.001$

Table 12　定型群および成人期 ADHD 群の WURS と CAARS 自己報告式および BDI-II との相関

	不注意／記憶障害		多動性／落ち着きのなさ		衝動性／情緒不安定		自己概念問題		ADHD指標		DSM—不注意		DSM—多動・衝動		DSM—総合ADHD		BDI-II	
定型群																		
男性																		
18～29歳	.58	***	.46	***	.64	***	.55	***	.66	***	.52	***	.53	***	.58	***	.51	***
30～39歳	.64	***	.54	***	.69	***	.51	***	.66	***	.64	***	.65	***	.71	***	.27	**
40～49歳	.63	***	.49	***	.59	***	.52	***	.66	***	.71	***	.51	***	.67	***	.44	***
50歳以上	.60	***	.44	***	.64	***	.52	***	.58	***	.64	***	.50	***	.61	***	.46	***
全体	.62	***	.49	***	.65	***	.55	***	.66	***	.62	***	.56	***	.64	***	.44	***
女性																		
18～29歳	.66	***	.57	***	.72	***	.42	***	.70	***	.64	***	.59	***	.69	***	.40	***
30～39歳	.73	***	.58	***	.77	***	.63	***	.87	***	.73	***	.68	***	.78	***	.40	***
40～49歳	.47	***	.61	***	.63	***	.42	***	.57	***	.48	***	.54	***	.53	***	.11	
50歳以上	.58	***	.54	***	.63	***	.63	***	.72	***	.66	***	.57	***	.66	***	.33	**
全体	.64	***	.58	***	.70	***	.52	***	.72	***	.64	***	.60	***	.68	***	.33	***
成人期ADHD群	.46		.52		.71	**	.23		.74	**	.18		.46		.50		.01	

$^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$, $^{***}p<.001$

Table 13　WURS の性別×年齢層の分散分析結果

	性別	年齢層	性別×年齢層
	F (df = 1)	*F (df = 3)*	*F (df = 3)*
WURS全体尺度	36.79 ***	7.51 ***	0.38
(*df*=752)	男性 > 女性	18～29歳 > 40～49歳	

***$p < .001$

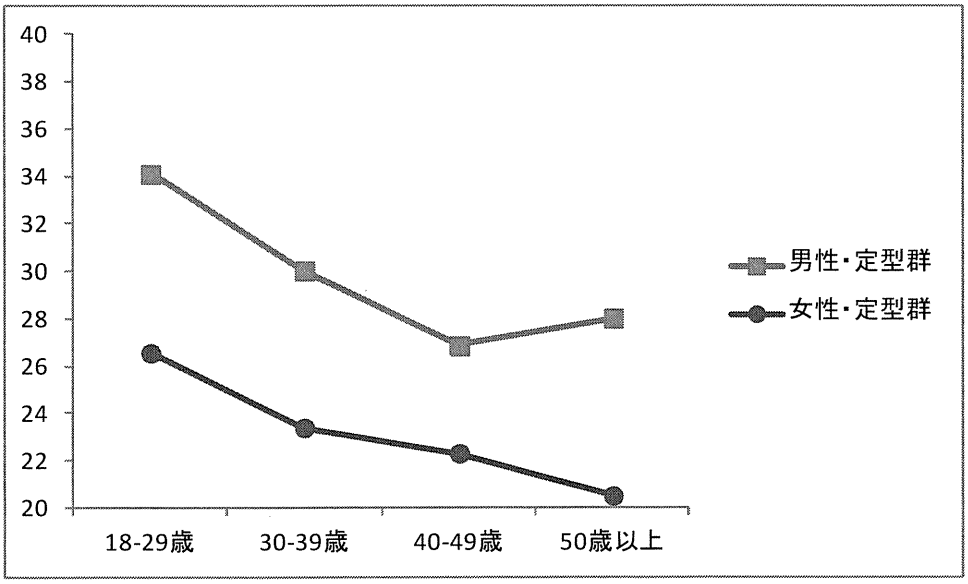

Figure 1　定型群の WURS 性別ごとの平均値

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）
分担研究報告書

成人期注意欠陥・多動性障害の疫学，診断，治療法に関する研究
実態把握と診断・治療の指針作成に関する研究（３）

分担研究者　齊藤万比古[1)]
研究協力者　渡部京太[1)]　小平雅基[1)]　宇佐美政英[1)]　岩垂喜貴[1)]
青木桃子[1)]　勝見千晶[1)]
１)国立国際医療センター国府台病院児童精神科

研究要旨

成人期 ADHD の診療の現状を調査するために，成人期 ADHD を診断するために使用している診断基準，アセスメント・ツール，検査，実際に行っている治療などについてのアンケート調査を実施した。最終年度は，成人期 ADHD の患者に行われている治療についての調査結果を中心に報告する。薬物療法を「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」と回答していたのは約 60%だった。同様に「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」と回答していた対象は，個人精神療法について 75%，ソーシャルスキル・トレーニング（SST），認知行動療法（CBT），家族療法について約 30%，職場や学校との連携について約 50%，就労支援について約 30%だった。薬物療法については，コンサータを投薬すると回答した対象は４名，ストラテラを投薬すると回答した対象は 26 名，セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）は 12 名，選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）は３名，三環系抗うつ薬は６名，非定型抗精神病薬は 11 名，気分安定薬は３名で，さまざまな薬物が試されていること，さらに成人期 ADHD の第一選択薬として，コンサータ，ストラテラが考えられていることがうかがわれた。今後薬物療法だけでなく，成人期 ADHD の心理社会的支援・治療プログラム，例えば児童期から成人期まで継続的に SST，CBT プログラム，就労支援プログラムなどを充実させていく必要があると考えられた。Murphy らが示した成人期 ADHD の診断・評価過程は参考になると思われるが，成人期で ADHD の診断を想定する必要がある場合は，気分の変動が激しい症例，通常の治療や支援に反応しにくい気分障害や不安障害，パーソナリティ障害の症例などがあげられるだろう。

A.　研究目的

初年度われわれ[1)]は，成人期 ADHD の先行研究をレビューし，成人期 ADHD の疾患概念について検討し，Barkley ら[2)]が DSM-5 にむけて提案している成人期 ADHD の診断基準を紹介した。そして２年度は，成人期 ADHD の診療の現状を調査するために，日本 ADHD 学会会員，日本児童青年精神医学会の認定医，評議員およびその周辺の児童精神科医，全国児童青年精神科医療施設協議会に加盟している病院の児童精神科医，過去 5 年間に思春期・成人期の ADHD や広汎性発達障害に関する論文を執筆者でそのうち医師だった者を対象に，成人期 ADHD を診断するために使用している診断基準，アセスメント・ツール，検査，実際に行っている治療などについてのアンケート調査を実施し，その結果を報告した。最終年度は，成人期 ADHD の患者に行われている治療についての調査結果を中心に報告する。

B.　研究方法

本研究では，成人期 ADHD を 18 歳以上の『ADHD の症状を持つ成人，あるいは ADHD の児童が成人後もその症状を残存している状態』と定義した[3]。そして，『成人期 ADHD の診断・治療に関するアンケート調査票』を作成した。この調査票には，成人期 ADHD の診療実態，診断のために使用している診断基準，アセスメント・ツール，実際に行われている治療などについての質問項目が含まれており，「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」「ときどき行う（日常的にたまに行う）」「ほとんど行わない（日常的に行わない）」の 4 段階評価で回答してもらった。日本 ADHD 学会医師会員，日本児童青年精神医学会の認定医，評議員およびその周辺の児童精神科医，全国児童青年精神科医療施設協議会に加盟している病院で診療している児童精神科医，過去 5 年間に思春期・成人期の ADHD や広汎性発達障害に関する論文を執筆者のうち医師を対象とした。なお，過去 5 年間に思春期・成人期の ADHD や広汎性発達障害に関する論文は，医学中央雑誌刊行会の「医中誌 web」を思春期，青年期，注意欠如・多動性障害（ADHD），広汎性発達障害，アスペルガー障害，発達障害という key word で検索を行った。今回の報告では，日本 ADHD 学会の医師会員，全国児童青年精神科医療施設協議会に加盟している病院で診療している児童精神科医，過去 5 年間に思春期・成人期の ADHD や広汎性発達障害に関する論文を執筆者のうち医師からの回答を解析対象とした。

C. 結果

1）調査対象：

回答が得られた対象は 100 名だった。

①成人期 ADHD 患者を主に診療している機関は，クリニック 16 名，総合病院 48 名，単科精神病院 24 名，小児専門病院 7 名，その他 7 名だった。

②調査対象の専門領域は，精神科 27 名，児童精神科 70 名，小児科 1 名，小児神経科 2 名だった。

③調査対象 86 名（14 名は未記入だった）の臨床経験年数は 3 年から 48 年に分布しており，86 名の平均臨床経験年数（±標準偏差）は 17.6（±9.5）年だった。

④調査対象の成人期 ADHD 患者の診療経験については，図 1 に示した。16 歳から 41 歳以上に及ぶ広い年齢層の ADHD 患者を診療していることがうかがえる。

2）成人期 ADHD の患者に実際に行われている治療については，図 2 に示した。薬物療法を「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」と回答していたのは約 60%だった。同様に「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」と回答していた対象は，個人精神療法について 75%，ソーシャルスキル・トレーニング（SST），認知行動療法（CBT），家族療法について約 30%，職場や学校との連携について約 50%，就労支援について約 30%だった。

3）成人期 ADHD 患者への心理社会的治療をめぐって

個人精神療法では，①患者本人に ADHD という疾患の特性を理解してもらうこと，②実際の生活上で困難な点をサポートすること，③職場や家庭における緊急事態におけるリスクマネージメント的助言，④自尊感情の低下，抑うつ，不安への対応といったことに焦点をあてるという回答が多かった。

家族療法や夫婦療法では，患者の配偶者やパートナーに ADHD という障害の特性を理解してもらい，家庭における緊急事態におけるリスクマネージメント的助言といった介入を行い，夫婦間やパートナーとの間の葛藤を修正することに焦点をあてるという回答が多かった。

職場や学校との連携では，職場の上司や学校の教員に ADHD という障害の特性を理解してもらい，職場や学校での支援体制を整えることに焦点をあてるという回答が多かった。

4）成人期 ADHD 患者への薬物療法をめぐっ

て

ⅰ）薬物療法を開始する時の基準として，DSM-Ⅳ-TR の第５軸にある「機能の全体的評定（GAF）尺度」を，「必ず使う（日常的に必ず使う）」と回答したのは 23 名，「しばしば使う（日常的によく使う）」と回答した対象は 18 名，「ときどき使う（日常的にたまに使う）」と回答した対象は 44 名，「ほとんど使わない（日常的に使わない）」 と回答した対象は 10 名だった。その他に「心理社会的治療が効果不十分な時」「本人，家族の苦悩が強い時（日常生活の困難が強い時）」「併存障害を認める時」「Conners’ Adult ADHD Rating Scale（CAARS）総スコアのカットオフ値を超えている時」には薬物療法を開始するという回答が得られた。

ⅱ）薬物療法を開始する時の GAF 尺度については，図３に示した。GAF 尺度が「41－50」で開始すると回答した対象は 22 名，「51－60」で開始すると回答した対象は 53 名だった。

ⅲ）実際行っている薬物療法については，図４に示した。長時間作用型塩酸メチルフェニデート（コンサータ®）を投薬すると回答した対象は４名，アトモキセチン（ストラテラ®）を投薬すると回答した対象は 26 名，以下セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）は 12 名，選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）は３名，三環系抗うつ薬は６名，非定型抗精神病薬は 11 名，気分安定薬は３名だった。さまざまな薬物が試されていることがうかがわれた。

ⅳ）長時間作用型塩酸メチルフェニデート（コンサータ®），アトモキセチン（ストラテラ®）が成人 ADHD 患者に対して投薬可能な場合の第１選択薬は何を投薬するかという回答は，図５に示した。コンサータを第一選択薬とすると回答した対象は 44 名，ストラテラを第一選択薬とすると回答した対象は 40 名だった。

成人期 ADHD に対して，二重盲検試験の結果から長時間作用型メチルフェニデート，アトモキセチン，三環系抗うつ薬，その他に bupropion の有効性が示唆され，臨床症状のみならず，実行機能障害などの神経心理学的所見を改善することも明らかにされている[4]。わが国の専門家は，成人期 ADHD の第一選択薬として，コンサータ，ストラテラが考えられていることがうかがわれた。

５）「成人の ADHD 患者を診療される時に，どのような支援が必要とお感じになっていますか？」について，自由記述で回答を求めた。①家族（親やパートナー），職場（学校）への理解を求めることが重要である，②就労支援が必要である，③継続的に SST，CBT を行ってくれる施設があったらよい，④自助グループがあったらよいという回答が比較的多かった。

６）「成人の ADHD 患者を診療する時に，特に配慮すること」について，自由記述で回答を求めた。①成育歴を得にくいため，診断が難しい，②広汎性発達障害（PDD）との鑑別が難しい，③本人，家族に ADHD という診断を告知し，さらに ADHD という疾患特性をよく理解してもらうことが必要である，④本人の困っていることを正確に把握し，その対処法を具体的に考えることが必要である，⑤就労支援が必要であること，⑥自尊感情の低下に配慮する必要があること，⑦抑うつや不安といった併存障害を評価し対応することが必要であることといった回答が比較的多かった。

６）成人期 ADHD の診断・評価過程をめぐって

Murphy ら[5]は，Barkley の ADHD の教科者の中で成人期 ADHD の診断・評価過程を示している（図６）。Murphy らの成人期 ADHD の診断・評価過程は参考になると思われるが，ADHD を疑われた成人患者に対しては，成人期 ADHD 症状の評価尺度である「Conners’ Adult ADHD Rating Scale（CAARS）」，そして DSM に準拠した半構造化面接である「Conners’ Adult ADHD Diagnostic Interview for DSM-Ⅳ（CAADID）」，さらに

頭部MRI検査，脳波検査といった医学的検査や心理発達検査を行い，ADHDの診断を行う必要がある。

ADHDの子どもが成人した際に出会う可能性の高い精神疾患として，物質乱用，不安障害，気分障害，反社会性パーソナリティ障害，境界性パーソナリティ障害があげられている[6]。成人期でADHDの診断を想定する必要がある場合は，「自分はADHDではないか」と受診した症例はもちろんであるが，気分の変動が激しい症例，　通常の治療や支援に反応しにくい気分障害や不安障害，パーソナリティ障害の症例などがあげられるだろう。

D. まとめ

日本ADHD学会の医師会員，全国児童青年精神科医療施設協議会に加盟している病院で診療している児童精神科医，過去5年間に思春期・成人期のADHDや広汎性発達障害に関する論文を執筆者のうち医師を対象として，成人期ADHDを診断するために使用している診断基準，アセスメント・ツール，検査，そして実際に行っている治療などについてのアンケート調査を実施し，今回は治療についての調査結果を中心に報告した。

1）　薬物療法を「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」と回答していたのは約60%だった。同様に「必ず行う（日常的に必ず行う）」「しばしば行う（日常的によく行う）」と回答していた対象は，個人精神療法について75%，ソーシャルスキル・トレーニング（SST），認知行動療法（CBT），家族療法について約30%，職場や学校との連携について約50%，就労支援について約30%だった。薬物療法については，コンサータを投薬すると回答した対象は4名，ストラテラを投薬すると回答した対象は26名，セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）は12名，選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）は3名，三環系抗うつ薬は6名，非定型抗精神病薬は11名，気分安定薬は3名だった。さまざまな薬物が試されていることがうかがわれた。さらに成人期ADHDの第一選択薬として，コンサータ，ストラテラが考えられていることがうかがわれた。

2）成人期のADHD患者を診療する時に必要な支援としては，①家族（親やパートナー），職場（学校）への理解を求めることが重要である，②就労支援が必要である，③継続的にSST，CBTを行ってくれる施設があったらよい，④自助グループがあったらよいという回答が多かった。成人のADHD患者を診療される時に，特に配慮することについては，①成育歴を得にくいため，診断が難しい，②広汎性発達障害（PDD）との鑑別が難しい，③本人，家族にADHDという診断を告知し，さらにADHDという疾患特性をよく理解してもらうことが必要である，④本人の困っていることを正確に把握し，その対処法を具体的に考えることが必要である，⑤就労支援が必要であること，⑥自尊感情の低下に配慮する必要があること，⑦抑うつや不安といった併存障害を評価し対応することが必要であることといった回答が比較的多かった。今後薬物療法だけではなく，成人期ADHDの心理社会的支援・治療プログラム，例えば児童期から成人期まで継続的にSST，CBTプログラム，就労支援プログラムなどを充実させていく必要があるだろう。

3）Murphyらの成人期ADHDの診断・評価過程は参考になると思われるが，ADHDを疑われた成人患者に対しては，成人期ADHD症状の評価尺度である「Conners' Adult ADHD Rating Scale（CAARS）」，そしてDSMに準拠した半構造化面接である「Conners' Adult ADHD Diagnostic Interview for DSM-Ⅳ（CAADID）」，さらに頭部MRI検査，脳波検査といった医学的検査や心理発達検査を行い，ADHDの診断を行う必要がある。

F. 健康危険情報　なし

G. 研究発表

1. 論文発表　なし

2. 学会発表

・勝見千晶，渡部京太，青木桃子，岩垂喜貴，宇佐美政英，小平雅基，齊藤万比古：成人期注意欠陥・多動性障害の実態把握と診断・治療の指針作成に関する研究．第52回日本児童青年精神医学会，徳島，2012年11月

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む

1. 特許取得　なし

2. 実用新案登録　なし

3. その他　なし

文献

1）　齊藤万比古ら：成人期注意・欠陥多動性障害の疫学，診断，治療法に関する研究実態把握と診断・治療の指針作成に関する研究（1），厚生労働科学研究費補助金　障害保健福祉総合研究事業　成人期注意・欠陥多動性障害の疫学，診断，治療法に関する研究，平成21年度　総括・分担研究報告書，85-92，2010.

2）　Barkley,RA.,Murphy,KR.,Fischer, M.：ADHD in Adults. New York, The Guilford Press ；2008

3）　齊藤万比古ら：成人期注意・欠陥多動性障害の疫学，診断，治療法に関する研究実態把握と診断・治療の指針作成に関する研究（2），厚生労働科学研究費補助金　障害保健福祉総合研究事業　成人期注意・欠陥多動性障害の疫学，診断，治療法に関する研究，平成22年度　総括・分担研究報告書，59-71，2011.

4）　Buitelaar JK,.Kan CC.,Asherson P.:ADHD in Adults.Characterization,Diagnosis,and Treatment.Cambridge,2011.

5）　Murphy KR.,Gordon M.:Assessment of Adults with ADHD.Attention-Deficit Hyperactivity Disorder,Third Edition ,BARKLEY RA,The GuifordPress,2006.

6）　齊藤万比古，渡部京太編：第3版　注意欠如・多動性障害-ADHD-の診断・治療ガイドライン，東京，じほう，2008.